

★対パレスチナ強硬論を競ったイスラエル総選挙＝ダイアナ・ブツ

ネタニヤフ首相のリカードとガンツ元国防相率いる野党の「青白連合」の首位争いとなったイスラエル総選挙について、パレスチナ人の立場から弁護士でアバス議長の顧問を務めたことがあるダイアナ・ブツさんが米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」で次のように語った（7月18日）。



ブツ 最終的にどちらが勝者になるかはまだ明らかではありませんが、敗者は誰であるかはもう決まっています。ネタニヤフ氏とガンツ氏の両方がともがパレスチナ人に対する非常に強硬な姿勢を打ち出しているからです。

この選挙は、50 年以上にわたる軍事占領の是非をとう国民投票ではなく、ネタニヤフ側の人種差別的なキャンペーンであり、彼はアラブ人が多数投票しているからと（危機感を煽って）人々に投票を促しました。そしてガンツ氏もガザを粉砕するつもりだったと言っているのです。

ですから誰が勝者になるのかはまだわかりませんが、敗者が誰なのかはもうわかっています。それはアパルトヘイトがあつてほしくないと思っている人たち、占領の継続があつてほしくないと思い、自由を望んでいるひとたちです。

問 あなたは昨年（イスラエル国会で）成立した「ユダヤ人国家法」が選挙戦でまったく議論されていないと言っていましたね。この法律は、どうみてもイスラエルが民主主義国家であることを疑わせるものです。

ブツ その通りです。「共同リスト」と呼ばれる反シオニストのグループを除いて、どの政党も政策綱領で「占領」への言及がありません。パレスチナ人の自由や「平等」への言及もありません。代わりに、「共同リスト」を除くすべての政党が主張したのは、ユダヤ人国家の必要であり、ユダヤ人が多数をしめて優位にたつという考え方を維持することの必要です。パレスチナ人の自由をとりあげた政党は実際ひとつもありませんでした。

ですから総じて、イスラエルの市民であるパレスチナ人としてこの選挙を見たとき、これは、実際は、米国流に言えばトランプ対トランプの間の選挙でした。候補者の間でも政党と政策の間でも実際のところ何の違いもないのです。

問 「共同リスト」はどうですか。これまでのところ得票はふえたのですか。

ブツ 「共同リスト」が非常に強力な運動をしたのは確かです。目標は、米国でテロリストに分類される極右派ファシスト党を阻止することです。できるだけ多くの人々を投票に参加させて、これらの党の（前進に）ストップをかけようと思いました。それはある程度成功しました。まだ議席増には届きませんが、得票数を増やしました。彼らの運動でとても興味深かったのは、対象がアラブの有権者ではなく、ユダヤ系イスラエル人の左翼をターゲットにしたことでした。これらの人々に「占領を終わらせ、パレスチナ人との平等を本当に考えるなら、その政策を掲げているのは『共同リスト』だけだ」と訴えました。

そしてユダヤ人有権者からも一定の票を獲得することができたことがわかりました。他に選択肢がなかったからです。他のすべての政党は、自由や平等のビジョンではなく、パレスチナ人に対してどれほど厳しくなりえるかを競い合っていたからです。

問 (65%のイスラエル人が2国家解決を支持していると発言した労働党女性議員について)

彼女が所属する党の政策綱領は、占領の終了にも2国家解決にもまったく触れていません。それを考えると、彼女の発言は興味深いです。しかし彼女は、以前はエフド・バラク（元首相）と提携していました。バラク元首相は彼女の政党メンバーです。彼は（在任時）パレスチナには平和のパートナーがいないという虚偽の言説を広め、2000年10月の第二次インティファダの際、イスラエル市民である13人のパレスチナ人を殺害した張本人です。

ですから、選挙が行われたこの時点で彼女がこのような見方をしているのは素晴らしいことですが、これを初めからいっていたらもっと良かったのです。最初からこのビジョンを打ち出して、ネタニヤフや他の諸党に占領を継続するのではなく、終わらせるように求めていればなおよかった。

問（ネタニヤフ首相は次期政権では西岸の3分の1にあたるヨルダン溪谷と死海北部を併合すると発言した。またガンツ氏は、それはもともと青白連合の政策だと競っていることについて）

こうした発言は世界中で非難されているのに、イスラエル国内では称賛されています。このことはイスラエルの世論がどこにあるのかを正確に示していると思います。見ての通りネタニヤフはこの計画を自慢し、他の政党もさらに進んで自慢しています。中道といわれるガンツ氏も自慢するだけでなく、それはもともと自分の考えだと主張しています。こういうことをみると、この考え方はイスラエルの内部にあることが正確にわかります。彼らは自分たちが法よりも上にあり、パレスチナ人は法の下にあると考え、自分がやりたいことは何でもできると考えているのです。

だから私たちパレスチナ人にとっては、次期首相がガンツになろうとネタニヤフになろうと結果は同じです。この事実から目を離さないことが極めて重要なのです。そしてまたBDS（ボイコット、投資引き上げ、制裁）運動をさらに強めることが非常に重要である理由です。イスラエルを止める道はそれしかないからです。

問（極右のリーバーマン元国防相が国民統一政府をよびかけていることについて）

リーバーマンは政治的には消滅の危機に瀕していました。そして今でも政党の規模では第5党にすぎません。しかし彼と他の諸党は強い人種差別的な見方を示すことで注目されています。彼は選挙の再度のやり直しをしたくないので、代わりに広範な国家統一連合をよびかけているのです。しかし彼らがいう「国民の団結」とは、パレスチナ人以外の誰もという意味です。彼らは入植地の拡大や併合を続けたいと考えています。ですからリーバーマンは、実際は重要人物でないにもかかわらず、反シオニスト党とその政策を見たい人がだれもいないために、入植地を拡大しパレスチナ人の自由を否定し続ける幅広い連合を推進しているのです。

問（クネセトに支配される 500 万人のパレスチナ人がこの選挙で投票できない。イスラエルと国際社会はこの人種差別体制を正常とみなそうとしていることと知るべきだと著名なパレスチナ人弁護士が訴えていることについて）

まったく彼女の言う通りです。このシステムでは、18 歳以上のイスラエル国民である人々だけが投票を許可されます。現在 600 万人近くが投票権を持っていますが、イスラエルは西岸、ガザ地区、東エルサレムなどの土地も占領しています。この占領支配下の人々は投票権をもたないままなおイスラエルに支配されているのです。イスラエルが生活を管理している約半数の人々は投票権を持たない。こういう二重システムは、アパルトヘイト（人種隔離政策）のレベルにあることを明確に示しています それはまさに入植者による植民地主義の一つであり、アパルトヘイトです。

だから私は、イスラエルの首相になるかもしれないガンツのような人を称賛するのではなく、アパルトヘイトのシステムそのものを終わらせ、パレスチナ人がイスラエルの支配ではなく自由と尊厳と平等のなかで生きられるようにすることが非常に重要だと思うのです。

昨日の（選挙で）興味深いのは、イスラエル人が投票に行く間、チェックポイントが完全に閉鎖されたことでした。イスラエル人が移動の自由を持っている間、パレスチナ人はバンツースタンに閉じ込められました。イスラエル人が確実に投票できるようにするためです。これこそまさに入植者による植民地アパルトヘイト体制の下で生きることの本質です。（以上）